

## 研究・調査報告書

分類番号		報告書番号	担当
A-141	A-200	14-037	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
<b>題名 (原題/訳)</b>			
Neurologic complications of alcoholism. (Review) アルコール中毒症の神経学的合併症			
<b>執筆者</b>			
Noble JM, Weimer LH. .			
<b>掲載誌</b>			
Continuum (Minneap Minn). 2014 Jun;20(3 Neurology of Systemic Disease):624-41. doi: 10.1212/01.CON.0000450970.99322.84.			
<b>キーワード</b>			<b>PMID</b>
アルコール依存症、神経学的合併症、飲酒パターンのリスク層別化			24893238
<b>要 旨</b>			
<b>目的：</b> この総説では、疫学、臨床症候、診断的アプローチ及び治療を含めて、アルコール乱用あるいはアルコール禁断症状に関連する神経学的疾患の概要を述べる。			
<b>最近の知見：</b> アメリカ合衆国の成人において、頻繁なアルコール乱用や明らかなアルコール中毒は非常に一般的である。飲酒率は年代ごとに減少するものの、10%もの高齢者に過剰飲酒がみられる。社会に普遍的なアルコール中毒の背景があるとすると、アルコール依存の合併症はエタノールの生化学的標的とその合併症の病態生理学の理解に焦点を置いた最近の医学的進歩に伴い臨床的に認識されてきている。			
<b>概要：</b> アルコール乱用の慢性的な影響は無数にあり、中枢神経及び末梢神経への直接的、間接的な作用による神経学的合併症が含まれる。これらの疾患には、アルコール毒性、禁断症状に関連する脳症、栄養素の欠乏に関連する脳症、急性及び慢性の中毒性や栄養素欠乏による末梢ニューロパチーやミオパチーが含まれる。具体的には、中枢性神経合併症には、急性合併症としてアルコール毒性・離脱症状、慢性合併症としてウェルニッケ脳症・コルサコフ作話健忘症候群・アルコール関連性認知症・Marchiafava-Bignami 病・小脳変性症があり、末梢性神経合併症には、慢性合併症として慢性アルコール性ニューロパチー・ジスルフィラム性ニューロパチー（注 ジスルフィラムはアルコール依存症の治療時に嫌酒薬として用いられる）・慢性アルコール性ミオパチー、急性合併症として急性アルコール性ニューロパチー・アルコール関連性圧迫性ニューロパチー・急性アルコール性ミオパチーがある。アルコール中毒とその神経学的合併症の「予防」が最適の戦略であるが、本レビューではそれらに対する特定の「治療」のアルゴリズムを示した。			
<b>結論：</b> アルコール中毒は、ニューロパチーやミオパチーを含む中枢及び末梢性神経学的合併症を伴う健康問題である。アルコール中毒及びその合併症の高有病率と罹患率・死亡率が、加齢やアルコール中毒そのものに関連する他の医学的合併症によってマスクされているとすれば、合併症を的確に把握することが効果的な神経学的治療管理のために重要である。			